

公 表

第7回若年者ものづくり競技大会「建築大工」職種 競技課題

支給された材料を用い、次の仕様、課題図及び注意事項に従って、木ごしらえ、墨付け及び加工組立てを行なさい。

1. 競技時間

標準時間 4時間15分 打切り時間 4時間30分

2. 仕様

(1) 木ごしらえ

イ 部材の仕上がり寸法は、次のとおりとすること。

部材名	仕上がり寸法 (mm)
桁	60×70
はり	60×70
柱	60×60
たる木	40×45
火打ち	30×60
飼木 (ねこ)	50×60

ロ かんな仕上げは、中しこ仕上げとすること。

(2) 墨付け

イ 平勾配は、4／10の勾配とすること。

ロ 加工組立てに必要な墨（黒の墨とする）は、すべてつけること。

なお、下書きを鉛筆ですることは差し支えない。

ハ 桁の峠は、材の上端とすること。

ニ たる木のほぞ寸法は、厚さ20mmとし、形状は課題図の通りとすること。

ホ たる木の桁側木口は勾配に直角に、柱側ほぞの上部は水平に切ること。

ヘ たる木には、上端及び下端に幅芯墨、桁の芯を上端及び側面に入れること。

ト はりのほぞ寸法は、厚さ20mmとし、形状は課題図の通りとすること。

チ はりには、上端及び下端に幅芯墨を入れること。

リ はりと桁との取合いは、大入れありとし、寸法は課題図の通りとすること。

ヌ 桁には、上端及び下端の芯墨、たる木の位置墨（口脇墨）を入れるとともに、たる木の芯墨を上端及び側面に入れること。

ル 柱には、4面に幅芯墨及び峠墨を入れること。

ヲ 火打ちには、上端に幅芯墨を入れるとともに、火打ちの幅芯墨を延長した線を桁

及びはり上端に入れること。

(3) 加工組立て

- イ 加工組立ては、課題図の通りとし、順序は任意とする。
- ロ たる木、はり及び火打ちは、課題図に示す位置にくぎ止めする。
- ハ 取合い部を除く全ての木口はかんな仕上げ、面取りとすること。
- ニ 飼木（ねこ）の桁への止め付けは、飼木（ねこ）木口より桁へ、それぞれ2本のくぎで固定すること。（課題図の通り）

3. 作品の提出

- (1) 課題作品は、組上がった状態で提出すること。
- (2) 組立てが完了した選手は、競技委員に申し出て席番号を記入した荷札を作品に付け、指示する場所に提出すること。
- (3) 提出した作品はいかなる理由があっても、選手は一切手を触ることはできない。
提出後は作業場所の清掃を行い、委員の指示に従ってすみやかに退場すること。

4. 注意事項

- (1) 支給された材料の寸法及び数量等が「支給材料」に示すとおりであることを確認すること。
- (2) 支給された材料に異常がある場合は、申し出ること。
- (3) 競技開始後は、原則として支給材料の交換は行わない。
- (4) 指定した工具以外のものは使用しないこと。
- (5) 競技中は、工具等の貸し借りを禁止する。
- (6) 競技時の服装等は、作業に適したものであること。
- (7) 作業所は整理整頓し、ケガ等に注意して安全な作業を心掛けること。
- (8) 標準時間を超えて作業を行った場合は、超過時間に応じて減点する。
- (9) 作品が完成した時は、競技委員に申し出ること。

5. 支給材料

支給材料の材種は、「カナダツガ」上小節材程度の材料を予定しているが、当日材種等が変更されることもある。

部材名	寸法又は規格 (mm)	数量 (本)	備考
桁	550×61×71	1	
はり	500×61×71	1	
柱	450×61×61	1	
たる木	650×41×46	1	
火打ち	450×31×61	1	
飼木（ねこ）	200×51×61	1	切り使いとする
くぎ	50 柱、はり、飼木（ねこ）用	8	予備2本を含む
	65 たる木、火打ち用	5	予備2本を含む

6. 使用してもよい工具類

さしがね、まきがね（スコヤ）、自由がね、墨さし、墨つぼ、かんな、のみ、のこぎり、
きり、げんのう、かじや（バール）、けびき、くぎしめ、電卓、鉛筆、養生用の布・滑
り止め

※数量は自由とする

7. 会場に準備されているもの

作業台 600×105×105 1本、作業床（合板）910×1820 厚さ 12mm 1枚

削り台（1200×105×105 程度）、削り台止め（900×45×18 程度）

競技者の作業エリアの床面積は、選手1名当たり最低 2m×2m とする。